

鋼種	成分%	油健滓 溫度C	反滓溫度 (二時間)	平方吋		降伏 の比	延伸% (二吋)	斷面收 縮率	ブリネ 硬度	最大負 荷と硬 度の比	平方吋に付四噸乃至四噸の範 圍に於けるヤング氏の強率	
				應準限度	降伏點							最大負荷
D 炭素	炭素 0.75	600	33	30.2	46.2	0.65	27	23	9	33	0.101	29.3
	炭素 1.35	600	33	30	44.5	0.67	27	23	9	33	0.101	29.7
E 炭素	炭素 0.15	600	20	27.5	42.2	0.65	33	24	13	21.0	0.101	29.5
	炭素 0.11	600	20	27	41.5	0.68	33	24	13	21.0	0.101	29.5
F 炭素	炭素 0.06	600	20	25	39.8	0.68	33	24	13	21.0	0.110	31.3
	炭素 0.00	600	20	23	38.5	0.85	33	24	13	21.0	0.113	31.5
C 炭素	炭素 0.35	1000	70	34	50	0.77	22	10.2	10.7	20.6	0.111	31.6
	炭素 0.33	1000	70	34	49.5	0.77	22	10.2	10.7	20.6	0.111	31.6
B 炭素	炭素 0.11	1000	60	33	47.4	0.76	23	10.2	10.7	20.6	0.111	31.6
	炭素 0.10	1000	60	33	47	0.76	23	10.2	10.7	20.6	0.111	31.6
D 炭素	炭素 0.17	1000	60	33	45.5	0.77	23	10.2	10.7	20.6	0.109	31.8
	炭素 0.15	1000	60	33	44.5	0.77	23	10.2	10.7	20.6	0.109	31.8
F 炭素	炭素 0.11	1000	60	33	44	0.77	23	10.2	10.7	20.6	0.111	31.8
	炭素 0.05	1000	60	33	43.5	0.77	23	10.2	10.7	20.6	0.111	31.8

第四表油健滓後反滓したる無銹鋼の牽引抗力

◎一九二三年英國鐵鋼生產狀況

(四月二十八日在倫敦帝國總領事堀義貴)

銑鐵 一九二三年銑鐵產出高は合計七百四十三萬八千噸にして前年の四百八十九萬九千噸前々年二百六十一萬噸に比し著増せるも一九一三年の千二十六萬噸に比し尙其七割に過ぎ

ず又一九二〇年に比し五十九萬六千噸を輕減し居れり而して前二年に比し著増を來したる直接の原因はルール問題に依る内外消費者の需要激増に起因せるは隙にして同年一月以降銑鐵產額は各月著増して五月には七十一萬四千噸に達したるも其後問題に伴ふ突發的好況も漸次凋落し從て產額も九月に至る迄降下し同年中最低月額五十五萬八千噸となりたり然れど

も十月以降には本邦震災による鐵鋼建築材料其他の需要來と政府の失業者救濟土木事業の設定及年末一般貿易順調期に入りたるにより商況再び持直し月産額亦漸増して十二月末作業熔鑛爐數年前同期の一六九に比し二〇四爐を算せり然れども戦前平時時に於ける爐數は約三百なるを以て同年を戦前に比すれば尙遙に下位たるを知るべし。

最近二年英國銑鐵月別産額(單位噸)

月別	一九二二年	一九二三年
一月	二八八、〇〇〇	五六七、九〇〇
二月	三〇〇、一〇〇	五四三、四〇〇
三月	三八九、八〇〇	六三三、六〇〇
四月	三九四、三〇〇	六五二、二〇〇
五月	四〇七、九〇〇	七一四、二〇〇
六月	三六九、二〇〇	六九二、九〇〇
七月	三九九、一〇〇	六五五、一〇〇
八月	四一一、七〇〇	五九九、八〇〇
九月	四三〇、三〇〇	五五一、六〇〇
十月	四八一、五〇〇	五九五、七〇〇
十一月	四九三、九〇〇	五九八、二〇〇
十二月	五三三、七〇〇	六二六、九〇〇
年	額	月平均額
一九一三年	一〇、二六〇、〇〇〇	八五五、〇〇〇
一九二〇年	八、〇三四、七〇〇	六六九、五〇〇
一九二一年	二、六一一、四〇〇	二一八、〇〇〇
一九二二年	四、八九九、五〇〇	四〇八、二九〇
一九二三年	七、四三八、五〇〇	六一九、九六〇

鋼鐵 一九二三年鋼鐵産額は銑鐵と同じく前二年に比し著増したるが殊に注意すべきは同年産額八百四十八萬八千噸は戦前一九一三年の百六十六萬噸を超過したることなり其主要

原因は前項既述のルール占領に伴ふ英國鐵鋼品需要著増に因るものなるは瞭なるが其月産額も一月以降漸増し五月に至りては八十二萬千噸に達し最近三年間の最高記録を畫せり然れども五月以降に於ては突發的好調の後を受け反動的不振漸次襲來加之佛國及白耳義製品は爲替低落と勞働賃銀安價を利用して大陸産業の不振と需要減により英國製品に對し競争的地位に立ち且英國内地市場に侵來する等あり尙同年下半年期の造船所汽罐工の同盟罷業其他爭議の結果當國鐵鋼界は大打撃を受け爲に六月以降各月産額漸減し年末多少持直たりと雖同年前半期の好況なりしに比すべくもなかりき。

最近四年英國鋼鐵月別産額(單位噸)

月別	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
一月	七四〇、〇〇〇	四九三、四〇〇	三七七、五〇〇	六四〇、一〇〇
二月	七六九、〇〇〇	四八三、五〇〇	四一八、八〇〇	七〇七、一〇〇
三月	八四〇、〇〇〇	三五九、一〇〇	五五九、四〇〇	八〇二、五〇〇
四月	七九四、〇〇〇	七〇、六〇〇	四四、三〇〇	七四九、四〇〇
五月	八四六、〇〇〇	五、七〇〇	四三、三〇〇	八二一、〇〇〇
六月	八四三、〇〇〇	一、七〇〇	四〇、一〇〇	七六七、七〇〇
七月	七八九、〇〇〇	一、七〇〇	四三、一〇〇	六三九、五〇〇
八月	七〇九、〇〇〇	四三、一〇〇	五六、四〇〇	五六七、五〇〇
九月	八八四、七〇〇	四九、三〇〇	五五、九〇〇	六九五、一〇〇
十月	五〇四、三〇〇	四五、四〇〇	五五、三〇〇	七〇一、一〇〇
十一月	五〇五、一〇〇	四三、八〇〇	六〇、八〇〇	七四九、五〇〇
十二月	七四六、六〇〇	三八、一〇〇	五五、一〇〇	六五三、三〇〇
計	九、五六一、八〇〇	三、六三四、八〇〇	五、八二九、九〇〇	八、四八六、九〇〇

鐵鋼價格 一九一三年以降一九二三年に至る十一年間のクリーヴランド及スチールバー、スチルアングル平均價格左の如し。

年次	クリーヴランド (チ・エム・ビー) 志片	スチルバー 志片	スチールアンガル 志片
一九一三年	六〇・〇〇	七・一〇	七・一〇
一九一四年	五二・〇〇	六・一六	七・〇三
一九一五年	六〇・〇〇	八・〇八	九・〇八
一九一六年	八二・一〇	一二・四〇	一一・〇八
一九一七年	九四・〇五	一三・一一	一三・一〇
一九一八年	一一三・〇四	一四・一〇	一四・一六
一九一九年	一四四・一一	二〇・〇九	二二・一二
一九二〇年	二〇五・〇五	二七・一七	二七・一五
一九二一年	一四一・一一	二〇・一六	二二・一三
一九二二年	八八・〇一	一一・〇七	一一・〇二
一九二三年	一〇八・〇八	九・一〇	九・一九

鐵鑛輸入 一九二三年鐵鑛輸入額は一九二〇年以降最高額に達し五百八十七萬千噸之を前年及前々年に比すれば夫々二百二十九萬八千噸及三百九十八萬三千噸を著増せるが戦前一九一三年に比し尙百五十七萬千噸を減少せり年初外國鐵鑛山殊に西班牙及北阿弗利加に於ては前年來の堆荷夥しく之が賣却方に付苦慮せし折柄ルール問題に伴ふ突發的需要を好機とし安價を以て輸入せられ其額過大となり爲に英國製鐵業者は六月以降鐵鋼需要減と共に一時之が消化に苦しむたる有様なりしが十月以降再び斯界の恢復に伴ひノーザムプトン地方にては安價なる外國產鐵鑛の需要を喚起し之が製品噸當り生産費はクリーヴランドの七志九片に對し僅に二志九片を以て足りクリーヴランド迄の運賃を加算するも尙割安となり英國鐵

最近三年英國鐵鋼製品輸出額 (單位數量噸、價額磅)

品別	一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鐵	一〇三、二一四	九九五、四七〇	六五一、〇七九	三、二五六、五三一	七二五、八二六	三、九七二、七六四
鋼						

鋼製品に對し競争的地位に立てり英國輸入鐵鑛の主要なるものは西班牙産にして各年輸入總額の約過半を占む尙アルゼリア瑞典諾威チニス産等あり其輸入額は前年及前々年に比し何れも増加せり。

英國鐵鑛及屑鐵輸入額 (單位噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
西班牙	四、七四〇元	九四、四九六	一、六七五、二〇六	二、五三三、〇八一
アルゼリア	七五、四六一	四〇、六五六	六九四、九三六	九八八、〇〇六
諾威	四七、七九九	七九、八五	一六、三三五	四三、八三九
瑞典	三六、六六一	一七、三三三	三〇、八八三	六〇九、〇九〇
チニス	二七、〇八一	一八、七一〇	二〇、七三三	三〇四、一七六
希臘	二〇、三六四	三、六六一	一九、七一	六九、七九四
其他	六三、五五	二五、九三三	三、八六一	八三、五八
合計	七、四二三元	一八、八七六元	三、四三六元	五、八七二、〇〇六
屑鐵	二九、三三三	一八、二七七	一〇、八二四	三三、八五五

鐵鋼製品輸出額 一九二三年鐵鋼製品輸出額は合計四百三十一萬九千噸七千六百二十萬磅に達し前年の三百三十九萬七千噸六千八百六十六萬千磅に比し價額千五百三十四萬磅數量九十二萬二千噸約二割五分の著増にして一九一三年の四百九十六萬九千噸に比し約一割の減少に止れり輸出品中前年に比し殊に著増したるは銑鐵鋼條竿棒アンダル型類鐵鋼板ブラックスシート罐詰荷造用薄鐵板鍊鐵鋼線及同製品等にして、右は數量のみならず前項記述の如く平均價は前年に比し一般に低落せるに拘らず價額著増せるを觀るべし。

品名	一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
フエロアロイス	三二、四七二	六八二、九五八	一四二、六八四	一、九四五、四八九	一六八、四七二	二、四八二、七六四
鐵條竿アンガル型類	三一、二九六	九五三、六五二	三一、四〇三	四九〇、二七五	四三、六一五	六〇三、七六六
鋼條竿アンガル型類	一〇六、八九九	三、〇九四、三三七	二二一、一〇九	二、九四五、五〇三	三五四、一四四	四、六三三、四九二
鋼桁梁柱類	三九、三七七	九九八、〇一六	五八、七三七	六四六、〇一八	七六、八四七	八一四、二二六
鋼板類	二一、七七〇	五八六、二一六	四八、二八一	七二四、五六八	七一、六一九	一、〇四三、〇〇四
鐵鋼板(厚さ八分の一吋以上)ブラックシート	一二八、〇一五	三、四四二、七三二	八〇、六〇二	一、〇〇一、〇五二	一九三、四八四	二、一九四、二三二
同(厚さ八分の一吋以下)	四八、六六〇	一、五〇四、五九四	一六九、二五七	二、五六二、七六七	二八四、九〇一	四、九六三、九五六
ブラックプレート	一四、一六二	四五三、七五〇	五五、五七九	九二六、二二〇	五四、〇七七	九七一、九〇五
亞鉛引鐵板	二一、六〇三	五、九八〇、九七一	五一三、一一〇	一〇、〇四九、一七四	六〇二、三九〇	一一、五六七、九一五
罐詰用及荷造用薄鐵板	二二六、四四〇	九、〇七七、二九二	四四八、八三一	九、六九三、〇六二	五五一、一二四	一一、六〇一、四〇〇
鐵鋼筒管	五六、七〇一	一、五八四、六一八	七六、二九〇	一、〇八二、四二九	八八、二九五	一、二五二、四〇五
鍊鐵	七八、一七八	五、一三四、四二六	八六、一八六	二、八八八、一二〇	一五三、九〇五	四、四五五、二二六
鐵道軌道其他鐵道材料	三四〇、一〇四	一〇、五五七、五二九	四七七、三五七	七、六五五、五〇八	四九三、四四一	六、八〇七、二五六
鐵鋼線	二〇、五二一	一、一二五、五七九	五四、五〇〇	一、四二八、四〇二	七八、五九六	二、一六九、九八四
同製品	二〇、八二〇	一、六五四、四一五	三四六、七七	一、七四六、六五〇	五二、五七二	二、四六九、一七九
釘類	八、三九四	四六八、九九八	一一、九八九	三九八、二七五	一七、四七〇	五二〇、二二四
鏢ボルト、ナット類	一五、九八三	一、二一六、九四九	一八、二二八	八五三、六〇四	二八、一二〇	一、一四八、六一四
ケーストアイオン製品	一七、四三四	一、〇一六、五八七	一四、五一九	六三九、〇二八	二三、四五九	八九八、九二七
鉛鎖鈎類	一五、一三一	一、一五五、一五八	一一、一七五	六六〇、四四七	一四、五八〇	六七八、二八九
寢臺及其部分品	三、八五九	四七二、二三七	七、二一八	五一五、八五八	一〇、三五七	六二六、三八九
其他	一五五、八五八	一一、四四九、〇六六	一八四、三七四	九、三九八、六一二	二三五、七三三	八、二九五、一七三
計	一、六九六、八八九	六三、六〇三、五五〇	三、三九七、一八五	六〇、八六一、六七四	四、三一九、五七一	七九、二〇一、九九〇

英國製薄鐵鋼板ブラックシートの對本邦輸出增加率

次に英國鐵鋼製品の本邦輸出額を前年に比するに其主要品に於て鐵鋼板(亞鉛引にあらざる厚さ八分の一吋以上のもの)を除き各種品著増し就中薄手鐵鋼板及ブラックシート(八分の一吋以下のもの)亞鉛引鐵板罐詰及荷造用薄鐵板の輸出の一時以下のもの)の同品本邦輸出增加率左の如し(單位同前)

對本邦輸出額	數量	價額	全數量に對する百分率	
			數量	價額
一九二一年	一六、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	三二	五六、〇〇〇
一九二二年	四八〇、〇〇〇	三二	五六、〇〇〇	八九七、〇〇〇
一九二三年	一六、〇〇〇	三二	一七三、〇〇〇	三、一二七、〇〇〇
全數量に對する百分率			六〇	

英國鐵鋼製品本邦輸出主要品 (單位同前)

品別	一九二一年		一九二二年		一九二三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鐵條アングル型竿類	三、三四四	八七、七五九	八五二	一四、八八七	一、二一七	二〇、二三二
鋼 同	五、一九四	一四七、四七三	一二、七二二	一四七、一三八	二二、六四九	二八〇、五八六
鐵鋼板及ブラツクシート (厚さ八分の一時以上のもの)	一三、五七六	七〇五、〇九二	一一、四七二	一三六、五五四	八、四七四	七九、九九三
同 (厚さ八分の一時以下のもの)	一六、〇八九	四八〇、六二八	五六、三七一	八九六、九六九	一七一、九二四	三、一二七、〇一三
亞鉛引鐵板	一三、九五一	四三一、六九二	七、三五八	一六九、一八八	一九、〇八三	五〇四、一二七
鑄詰及荷造用薄鐵板	二一、八〇二	七一五、二九一	一七、二八五	三八九、九三二	三七、六四八	八五三、一八一
鍊 鐵	一、二三八	九七、〇五六	一、〇七二	六六、七四〇	二、七七八	七九、五〇九

世界鐵鋼產額 一九二三年の世界銑鐵產額は約五千四百五十八萬噸にして獨逸を除き主要產鐵國何れも前年に比し増加せり米國の三千九百五十萬噸は頭角を抜き一九一三年の三千六十五萬三千噸を超過せる約九百萬噸に達せるに對し其他諸國の產額は前年より増加したるものありと雖尙戰前額に及ばず一九二三年英國產鐵額は前年の四百九十萬噸に比し二百五十四萬噸を著増したるも一九一三年の千二十六萬噸に對し尙其七割に過ぎず獨逸は戰前米國に次ぐ產鐵國として一年千九

百萬噸を產出したるも戰後激減一九二一年には戰前の三分の一翌年は稍々増して二分の一に達したるも一九二三年にはルール地方を占領せられたる結果僅に四百萬噸を產出するに過ぎざりしを以て產額は英佛の下位に下れり、又鋼鐵に於ても右様獨逸を除き各主要國何れも増加し米國は第一位に四千四百四十萬噸英國は獨逸と位置を轉じ第二位に八百四十八萬噸を產出し次で獨逸佛國白耳義等にして日本は銑鐵に於て三十萬噸鋼鐵に於て五十萬噸世界主要鐵鋼國の最下位なり。

世界銑鐵產額國別 (單位噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
英國	一〇、二六〇、〇〇〇	二、六一六、〇〇〇	四、九〇二、〇〇〇	七、四三八、五〇〇
米國	三〇、六五三、〇〇〇	一六、六〇六、〇〇〇	二六、八五一、〇〇〇	三九、五〇〇、〇〇〇
佛國	五、一二六、〇〇〇	三、三〇八、〇〇〇	五、一四七、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
白耳義	二、四二八、〇〇〇	八六二、〇〇〇	一、五七八、〇〇〇	二、一一八、〇〇〇
ルクセンブルグ	一	九五五、〇〇〇	一、六五〇、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇
獨逸	一九、〇〇〇、〇〇〇	六、〇九六、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇

合 計 (其他を含む)	世界鋼鐵產額國別									
	日 本	波 蘭	致 須 國	獨 逸	ル ク ゼ ン ブ ル グ	白 耳 義	佛 國	米 國	英 國	國 別
七五、〇一九、〇〇〇	一三、〇〇〇	一	一	一八、六三一、〇〇〇	一	二、四二八、〇〇〇	四、六一四、〇〇〇	三一、三〇一、〇〇〇	七、六六四、〇〇〇	一九一三年
四二、四八七、〇〇〇	五五八、〇〇〇	一、四七六、〇〇〇	九〇四、〇〇〇	八、七〇〇、〇〇〇	七四七、〇〇〇	七八〇、〇〇〇	三、〇一〇、〇〇〇	一九、七四四、〇〇〇	三、七〇三、〇〇〇	一九二一年
六三、〇九八、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九三〇、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一、三六八、〇〇〇	一、五三九、〇〇〇	四、四六四、〇〇〇	三五、六〇三、〇〇〇	五、八八一、〇〇〇	一九二二年
七二、五七三、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九三五、〇〇〇	七三八、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、一一七、〇〇〇	二、一八五、〇〇〇	四、七五〇、〇〇〇	四四、四〇〇、〇〇〇	八、四八〇、〇〇〇	一九二三年
										合計
										一九一三年
										一九二一年
										一九二二年
										一九二三年

◎米國製鐵會社の價格決定法廢止と本邦輸入に對する影響

米國州際商業委員會は合衆國製鐵會社に向つてヒッツバーグ市價決定法即ちヒッツバーグ、プライス、プランを廢止せん事を命令した、委員會は言ふ、同方法是一種の不正競争手段であり、市價の差別的賦課法であつて大いに鋼の市價を増加して消費者に迷惑を及ぼすと。

【備考】所謂ヒッツバーグ、プライス、プランとは鋼の値段に運賃を加へたものを以つて取引する定め方であつて、本船渡値段が幾らで運賃が幾らといふことを明記しないから、鋼の實際の値段が判らない、今回委員會は此

値段の建方を禁止したのである。

右は要するに公式の價格付けと賣出し値段の發表中止を意味するものである、即ちヒッツバーグに於ける賣出し値段は國內賣りの値段であつて、輸出賣りの値段でない、事實上日本の輸入鋼材など輸出獎勵の意味から内地賣りに比して安い、假に輸出價格は其割合に下ぬ、それだけに内地賣りに利益が多い事となる、また現在の生産費から見ても少からぬ利益がある、斯くの如き事情にあるため、其の内地賣りの値段を中止さへすれば消費者は個々に引合ひに出すことになるのであり、自然安いものも買はれ様といふ譯である、要するに日本として賣出し値段の發表を中止しても今後の輸入に何等の影響はなく、單に米國に於ける一般消費者と小製鋼業者に影響があるのみである。